

受験番号	氏名

令和 7 年度

貞静学園中学校

入学試験問題（国語）

試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かず、下記の注意事項をよく読むこと。

注 意 事 項

1. 問題用紙は14ページです。解答用紙は別紙（1枚）になっています。
2. 試験開始の合図で、問題用紙と解答用紙に、受験番号・氏名を正しく記入すること。
3. 試験開始後、「問題用紙のページ数と解答用紙」を確認し、足りない場合は静かに手を挙げ、試験監督者に申し出ること。
4. 解答には、必ず鉛筆、またはシャープペンシルを使用し、解答用紙の記入箇所をまちがえないように答えを記入すること。
5. 必要があれば、ラインマーカーまたはボールペンを使用してもよい。
6. 試験終了の合図で、試験監督者の指示に従って解答用紙と問題用紙を提出すること。

□ ① 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 各国のシユノウが集まる。
- ② 友だちに本をカす。
- ③ 朝顔にシチュウを立てる
- ④ 日本にブンブする植物。
- ⑤ ヒョウカをあげる。

次の傍線部の読み方をひらがなで答えなさい。

- ① あの人は見かけによらず度胸がある。
- ② 形見の人形を大事にしている。
- ③ お小遣いを財布にしまう。
- ④ 自治体の行事に参加する。
- ⑤ 垂直に線を引く。

三

次の四字熟語の意味にあたるものを、ア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 一期一会
- ② 空前絶後
- ③ 公明正大
- ④ 十人十色
- ⑤ 有名無実

ア 過去に例がなく、これからも起こらないであろうと考えられること。

イ 名前だけ有名で中身がともなっていないこと。

ウ 人の考え方や趣味がひとそれぞれ違っていること。

エ かくしことをせず、公平で不正がなく、言動が正しいこと。

オ 一度きりの出会いを大切にすること。

四 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

「タコジロー」は「うみのなか中学校」で唯一のタコである。緊張すると顔が真っ赤になってしまうことをみんなに笑われて、いじめられてきた。中学二年生の体育祭で、仕組みられて選手宣誓せんせいをする人選ばれてしまう。いろいろといやになった「タコジロー」は学校に行くバスから降りず、ズル休みをしてしまう。着いた先の公園で、不思議なヤドカリの「おじさん」と出会った。話すうちに、「タコジロー」は「おじさん」に学校のこと、友達のこと、進路のことなどを聞いてもらうようになった。

「でもね、可能性のなかに生きているかぎり、ぼくたちはものごとを真剣しんけんに考えなくなるんだ」
「どうして？ ぼくは真剣だよ。真剣だからこそ、まだ決めたくないんだよ」

「1 タコジローくんの思いは真剣だろう。けどその思いを『考え』にまで高めたいんだ。ほら、言ったじゃないか。『考える』ことは、答えを出そうとすること』だって。答えを出そうとしないまま保留しているのは、なにも考えないと一緒なんだよ」

「……なんだよ、もう！ 考えろ、考えろ、考えろって!! おじさんはどうしてそんなに考えさせようとするの？ 考えないのって、そんなに悪いことなの？ べつにいいじゃん、考えなくたって!!」 ≪ア≫

「① いいとか悪いとかじゃない。考えないのは危険なんだ」

おじさんは、低い、落ち着いた声で言った。

(中略)

「たしかにわかりやすい答えがあれば、納得する。頭の濁りにごりも、解消したつもりになれる。」
「2、そうやって飛びついた答えがニセモノだったらどうする？ しかも答えの裏に、タコジローくんをだまそうとする悪いやつがいるとしたら？ 自分で考える力を持たなかったら、その嘘うそも見抜けなくなるんだよ？」

「……簡単にだまされちゃうってこと？」

「ああ。おじさんだつてそうだ。もしかしたらおじさんは、タコジローくんをだまそうとしているのかもしれない。これまで話してきたことは、ぜんぶ嘘だったのかもしれない。日記なんて、書いたことさえないのかもしれない。なにか悪いことをたくらむ、

とんだ大悪党なのかもしれない。……そうだろ？」 《イ》

「……おじさんは、ぼくをだまそうとしてるの？ ぼくに嘘をついているの？」

「3 だましてなんかないさ。嘘も ついていない。ただ——」
ひとつため息をついて、おじさんは言った。

「仮におじさんが大悪党だったとしても、タコジローくんの目を見て同じことを言うだろうね。」 『 A 』 『 ってさ』

「そんな……」

「意地悪するような言いかたになってごめんよ。でも、自分で考える習慣を持たないまま生きるのは、それくらい危険なんだ」

「自分で考える習慣って……？」

「つまり、 『 B 』 だ」

そのとき、不意にかばんのシェルフォンが揺れはじめた。 『 4 』、ずっと前から a チャクシンしていたのを、いまようやく気づいただけかもしれない。

「でもさ、でもさ、そう言うけどさ」

ぼくは b コウフンぎみに c ハンロンした。

「ぼくたちみんな、書く習慣くらい持つてるよ？ ものすごい量を書いてるよ？ だけど、そんなに深く考えてないよ？ シェルフォンのアプリでやりとりするときなんて、みんなすごい d イキオいで返信してるもん。グループチャットとか、あつという間に100件くらい未読がたまったりするんだもん」

「へええ。それはすごいね」

「すごいなんてもんじゃないよ、ほら」 《ウ》

そう言つて、ぼくはかばんからシェルフォンを取り出した。

「またグループチャットだ。ほら、206件も未読がたまってる」

チャット e ガメンを開くと、トビオくんたちがぼくの知らない話題で盛り上がっていた。

スタンプも、どんどん押されていく。

「たしかに②シェルフォンで交わされていることばと、おじさんの言ってきた文章は種類が違うね」
「どう違うの？」

「シェルフォンで交わされることばはね、基本的に『おしゃべり』のことばなんだよ」

「おしゃべりのことば？」

「ああ。あの、^{*}コトバクラゲが運んでいた、泡と消えゆくことばさ」

「どうして？ おじさん、チャットってわかっている？ 電話してるんじゃないよ？ テキストを書いているんだよ？」

5 タコジローくんが、友だちに『あしたもよろしくね』とメッセージを送る。友だちがそれを読んで既読マークが表示される。それでタコジローくんは、このまま終わってほしいよぶかな？

「え？ 既読スルーされてるってこと？ それはいやだよ。『OK』のスタンプひとつでもいいから、なにか返信してくれないと」

③ どうしていやなんだろう？ だって、タコジローくんの言いたかった『あしたもよろしくね』は伝わったんだよ？ 読んだ証拠にちゃんと既読がついたんだよ？ だったらそれで十分じゃないか

「そんなこと言ったって、相手がどう思ってるのかわからないし、怒らせたりしていないか不安になるし、無視されてるみたいで気分も悪いし……」

「じゃあ、日記や作文、読書感想文はどうだろう？ たとえば卒業文集に作文を寄せる。これも、クラスみんなから感想を聞かないと不安になるかな？ 既読スルーするな、返事をよこせ、って思うかな？」

「それはないよ。……感想を言い合うようなものじゃないし」

「きつとそうだよな。なのにシェルフォンのメッセージでは、既読スルーされたと感じてしまう。返事をよこせと思ってしまう。」

それはタコジローくんが『 C 』で、メッセージを書いているからなんだ

「まあ……うん。それはそうなのかも」

「さて、おもしろいのはここからだよ。たとえばいま、タコジローくんはおじさんとおしゃべりしているよね？」

「うん」

「ここでもぼくたちは、返事をもらえる前提でしゃべっている。相手がなんの返事もしないなんて、ありえないと思っている」
「うん、そう思ってる」

「なぜおしゃべりは返事をもらえる前提なのか。じつは、おしゃべりって D が『返事』でできているんだ」

「返事が D ！」

「たとえばタコジローくんが、『きのう、財布を落としちゃったんだ』と言ってくる。おじさんが『それは困ったね』と返す。タコジローくんが『困ったなんでもんじゃないよ、お小遣いがぜんぶ入ってたんだもん』と返事をする。おじさんが『どこで落としたか、心当たりはあるの?』と返す。——ほら、返事じゃないのは最初のひと言だけ。あとはぜんぶ返事でできてるだろ?」

「相手に質問するのも、返事なの?」

「もちろんさ。相手の発言を受けて、あるいは話の流れを踏まえたうえで、その質問をしているんだからね」

「じゃあ、こうやってしゃべっていることばも、ぜんぶ返事?」

「そういうこと。逆に、おしゃべりのなかから返事の要素が減っていくと、その会話はギクシャクしたものになる。ときにはギスギスした雰囲気ふんいきになっていく」

「うーん。返事してるつもりなんてぜんぜんないけどな」

「つまり、こういうことさ。シエルフォンで交わされるメッセージは、『返事をもらえる前提』で書かれている。だから既読スルーが気になる。言い換えるならこれは、おしゃべりのことばだ。そして、おしゃべりのことばをどれだけ重ねても、考える習慣にはつながらない。それがおじさんの結論だ」

(古賀史健『さみしい夜にはペンを持って』)

※1 コトバクラゲ……頭の中に渦巻く「言葉にならない思い」を片付けるクラゲ

問 一 二重傍線部 a と e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二

1

5

に入る適切な言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア でも イ いや ウ たしかに エ たとえば オ もちろん

問三

傍線部①「いいとか悪いとかじゃない。考えないのは危険なんだ」とあるが、「おじさん」がそのように考える理由を解答欄につながる形になるように三十字以内で抜き出しなさい。

問四

次の文章が入る部分を文中の ≪ア≫ ≪イ≫ ≪エ≫ から選び、記号で答えなさい。

公園の入口に立てかけられた看板を思い出す。そういえばぼくは、おじさんの名前を知らない。職業も知らない。どうして朝から仕事もせずにこんなところにいるのか、どうしてぼくなんかを構ってくれるのか、どうしてシロサンゴの森に誘ったのか、なにも知らない。かばんのなかに押し込んだ防犯ブザーが、意識をかすめる。

問五

A

に入る適切な言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア ぼくを信じて
イ だましてなんかいないよ
ウ 信じられないの
エ だまされるほうが悪いよ

問六 B に入る適切な言葉を、本文中より五字以内で抜き出さない。

問七 傍線部②「シエルフォンで交わされていることば」について「おじさん」はどのような考えを持っているか。四十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部③「どうしていやなんだろう？」とあるが、この問いに対する答えとして正しくないものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 返事が減るとギクシヤクしたりギスギスしたりして雰囲気が悪くなるから。

イ 必ず返事をするのがシエルフォンのルールとして決まっているから。

ウ 相手はどう思っているのか分からないし、怒らせたかも知れないと不安に思うから。

エ 相手がなんの返事もしないなんて、ありえないと思っているから。

問九 C に入る言葉を文中から十字以内で抜き出さない。

問十 D に入る適切な言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 1割 イ 3割 ウ 5割 エ 9割

問 十一 本文の内容と合っているものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 「おじさん」は「タコジロー」に真剣に考えることの大切さを訴えている。
- イ 「おじさん」は「タコジロー」と会話をしながら、自分の考えに賛成するように説得している。
- ウ 「タコジロー」はシェルフオンのチャットを使いながら、友人とのつながりを強くしている。
- エ 「タコジロー」は「おじさん」にシェルフオンでのチャットのやり方を教えている。

〔五〕 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

筆者は、調理師としての仕事を家事育児でいったん離れたのち、第57次南極観測隊に調理隊員^{たいいん}として参加した。この文章はその時のエピソードである。

文章A

命に関わるトラブルが起きた時の無線は、とても緊迫^{きんぱく}したものになる。雪を溶かして水にする造水装置^{ぞうすい}にエラーが出たことがある。1日中太陽が昇らない「極夜^{きょくや}」と言われる時期で、その日は特に風速が高く外出注意令が出ていた。凍^いてついた機械が作動せず、警報が鳴ったのが23時くらい。私はまだ厨房^{ちゅうぼう}で仕事、食堂にもパソコン仕事をしていた隊員が数名いたが、なぜか自然発生的に1つのテーブルに集まり、中央に無線機を置いてその状況に聞き耳を立てていた。①みんな考えていることは同じ。こんな時、自分ができることは何もない。近くに行つて見守つたとしても邪魔^{じやま}になってしまう。でも自室に戻ることはできないし、ましてや眠りにつくこともできない。*1ドライスーツを着た隊員が交代で水槽^{すいそう}に入り、トラブルにあたっていることや明かりがないのでサポートする隊員がライトで水槽を照らしていることが無線から伝わってくる。とにかく事故のないようにと思いつながら、無線機の向こうで同じ時間を共有することだけが自分たちに行けることだった。やがて2時間が経過し、応急処置をしていったん作業を終えますという報告の無線を確認して、食堂にいた数名も解散となった。

個人によって無線機の使い方はさまざまだ。職種にもよるが、その人の性格も影響してくる。ブリザードの日はあえて元気な声で話す隊員やその逆で感情が声に乗ってしまう隊員、本来あるべき無線らしく、用件だけを淡々と話す隊員。それぞれが異なった使命を持って、離れた場所で仕事をしてはいるけれど、無線を通じて情報を共有し、時には思いも共有できる。限られた人間だけが生活している極地では必要不可欠なツールなのである。

文章B

深夜2時。

火災警報が鳴る。時間的に深い眠りについていて、すぐには目が覚めなかった。無線が飛び交うのを聞きながら自室を飛び出す。夜勤で仕事をしていた気象隊員が人員確認を始め、みんながそれに^{※2}呼応するようにそれぞれの所在、安否を伝える。消防服がかかっている長い通路に来た時に、パジャマの上に消防服を着ようとしている隊員が目に入った。そこでこれが訓練ではなく、リアルだと理解、心拍数が一気に上がる。

しかもその日は30人中8人が南極大陸に出かけていて人員不足。8人が不在にしている間の人員配置は決まっていたが、対応できるとは……私は医療班^{いりようはん}。毎月行なわれる訓練時は担架^{たんか}や医療セットを持って現場に急行するのだが、その時は無線の指示により消火器を運んだ。本当の火事だったらどうしよう、発生源とされる^{※3}建屋^{たてや}は基地の主要部にも近く、万が一燃え移ったら……電気のケーブルも近い……心の中で誤報^{ごほう}であることを祈りながら、何本もの消火器を運んだ。暗い上に、^{※4}外出注意令下。視界も充分ではない中、最前線にいる隊員が無線で状況を伝えてくれる。

うずたかい雪の山を這^はいつくばって登り、現場に向かう人々、無線から聞こえてくる緊迫した会話のやり取り。最終的にはブリザードで建屋の排気口^{はいきこう}が雪で詰まり、温度が上昇したことによってセンサーが感知したようだと判断された。この人たちすごいなっと思う。そして日ごろの訓練が生かされたことを身をもって感じた出来事だった。

もう1つの事件。

じきに新しい物資と交代要員を乗せたお迎えの船が来るよってタイミング。その日、私は天測点^{てんそくてん}と言われる付近で車両を使って除雪をしていた。夕食は相方さんが当番。夕食の時間に間に合うように作業を終え、車両の片付けをして基地に入ろうとしていた矢先、無線での一報が入る。内容を聞いただけで^{※5}尋常^{じんじょう}ではない、大変なことが起こったと直感した。

別の場所で重機^{じゅうき}を使って除雪をしていた隊員が、ある建物を壊^{こわ}したのだ。ライフラインに直結する建物ではなかったが応急処置が必要。②ここからが見事だった。無線を聞いていたみんなが一斉に現場に集結。状況を見た上で必要な物資をそれぞれに持ち寄った。必要であろうと思われる機械や車両を準備し、いつでも使えるように待機^{たいき}。誰かの指示を待つことなく、^{※6}粛々^{しゅくしゅく}と自分が

すべきこと、必要な用意を整えた。事故を引き起こした隊員を責めるものは誰1人としていなかった。夕食の時間はとくに過ぎている。それでも誰も手を止めようとはせず、※7黙々と応急処置をした。※8目処がついた時点でその日の作業は終了とし、基地に引き上げる。当事者の隊員の精神的ダメージは誰もが想像できる。自分がその立場だったら耐えられるだろうか。その後は手空き総員、要するに全員体制で処理に2日を要したが、海外の基地で発生したもつと※9重篤な事件の記事を見つけてくる人、マンガを手渡す人、声はかけず、でもずっと傍らで作業を共にする人、それぞれがそれぞれの方法で寄り添う姿が見られた。

経験していないこと、訓練していないことが急にできるわけがない。日々訓練をし、日々危険予知をしてきた我々にとって、自分たちが積み重ねてきた日常が無駄ではなかったと証明された場面でもあった。

(渡貫淳子『南極ではたらく かあちゃん調理隊員になる』)

※1 ドライスーツ：：内部に水が侵入しないタイプの保護スーツ。逆はウェットスーツ。

※2 呼応：：一方の呼びかけや話しかけに対し、それに答えること。

※3 建屋：：機械や設備が収納してある建物。

※4 外出注意令：：風速15 m/s以上かつ視程1000 m未満、発令時には直ちに無線で自分の所在地を通信室に連絡する。

2名以上で建物間に張ったライフロープを使用して行動し、移動の際は通信室へ連絡する。

注意令の時は1人で行動することはできないという決まりがある。

※5 尋常：：普通であること、特別でないこと。

※6 肅々と：：ひっそりと静かに仕事などに取り組む様子。

※7 黙々と：：黙って作業を行う様子。

※8 目処：：目指すところ、目当て、見通し。

※9 重篤：：症状が非常に重い様子。

問一 文章[A]、傍線部①「みんな考えていることは同じ」とあるが、どのようなことを考えていたか。適切なものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 機械が使えなくなった時に、雪を溶かして水にするための新しい方法を考えている。
- イ 事故のないようにと思いつつ、同じ時間を共有することを考えている。
- ウ トラブルの状況を気にしつつも厨房やパソコン仕事の続きについて考えている。
- エ 自分にできることは無くても、トラブルに対応している隊員のことを考えている。
- オ たとえ邪魔になったとしても、側に行つて応援しようと考えている。

問二 文章[B]、傍線部②「ここからが見事だった」について、次の問いに答えなさい。

- (一) 「見事だった」の内容に当たる部分を抜き出し、最初と最後の五字を書きなさい(句読点を含みます)。
- (二) 隊員たちがこのように行動できたのはなぜか。文中の言葉を用いて三十字以内で説明しなさい。

問三 文章[A]・[B]を通し、無線はどのような役割を果たしているか。説明しているものとして正しくないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア トラブルが起こっていることを感知するためのもの。
- イ 現在の状況を知らせ、情報を共有するためのもの。
- ウ 指示を聞き、自分がすべき行動を知るためのもの。

エ 状況を伝え、時には思いや感情を共有できるもの。

問 四 文章 **B** から考えられることわざを書きなさい。

ア 石の上にも三年 イ 三人寄れば文殊もんじゆの知恵 ウ 急がば回れ エ 備えあれば憂いなし

問 五 次の A・B どちらかを選び、百三十字以上、百五十字以内で自分の考えを書きなさい。

A 人に寄り添うとはどのようなことだと思いますか。あなたの考えを書きなさい。

B あなたが日々訓練してきたことが生かされた経験とそこで感じたことを書きなさい。

令和7年度 貞静学園中学校 入学試験問題（国語） 解答用紙

①	首脳	②	貸	③	支柱	④	分布	⑤	評価
---	----	---	---	---	----	---	----	---	----

①	どきよう	②	かたみ	③	さいふ	④	じちたい	⑤	すいちよく
---	------	---	-----	---	-----	---	------	---	-------

①	オ	②	ア	③	エ	④	ウ	⑤	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問一	a	着信	b	興奮	c	反論	d	勢	e	画面
----	---	----	---	----	---	----	---	---	---	----

問二	1	ウ	2	ア	3	オ	4	イ	5	エ
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問三	自分	で	考	え	る	力	を	持	た	な	か	っ	た	ら	、	そ	の	嘘	も
----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問四	見	抜	け	な	く	な	る	力	を	持	た	な	か	っ	た	ら	、	そ	の	嘘	も
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問五	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問六	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問七	え	お	し	り	は	つ	な	が	ら	な	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問八	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問九	返	事	を	も	ら	え	る	前	提	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問十	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問十一	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問一	無	線	を	聞	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問二	日	常	的	に	危	険	を	予	知	し	、	日	々	訓	練	を	積	み	上	。	。
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問三	ア	エ	ア	エ	ア	エ	ア	エ	ア	エ	ア	エ	ア	エ	ア	エ	ア	エ	ア	エ	ア
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

選んだ内容の記号を丸で囲みなさい。A・B

【採点基準】（減点する）

（A）どちらかの質問を選択し、それぞれの条件に合った解答がされているか。（5）

（B）どちらかの質問は、誤字脱字の範囲に収まっているか。（改行のし過ぎで文字数不足2）。

（C）改行のし過ぎで文字数不足2）。

（D）指定文字数の範囲に収まっているか。（改行のし過ぎで文字数不足2）。

（E）話し言葉の範囲に収まっているか。（改行のし過ぎで文字数不足2）。

（F）終わっていない（3）。

（G）主語述語がねじれている（3）。

問五	150	140	100	20
----	-----	-----	-----	----

受験番号

氏名